

残した短歌も魅力が
ふれている。たとえば「扶
余にて」とそえられた次
の一首。

王宮の聖の御子のをさ
な姿そこらゆく子にふと
思ひ浮ぶ

現在の韓国中部に位置
する扶余は6〜7世紀、
120年余にわたり百濟
王家の都として栄えた。
その地を現在行き交って
いる子供の姿が、かつて
の百濟の王族の幼子と重
なってみえると詠む。

1930年刊行の「日
本地理大系 朝鮮篇(改
造社)で伯教は「扶余の
部」の執筆を担当。「我
が国に渡った飛鳥朝の学
者・名僧・工芸家ら文化
人は、こうした環境に育
まれた事を思ふと一層な
つかしさを感ぜずには居
られない」と解説を結ぶ。
他の執筆者が説明に終始
する中、伯教だけが異文
化を自分の身に引き寄せ
てとらえた。

兄弟の足跡をたどると
朝鮮への深い愛が感じら
れる。これからも資料の
収集・整理を続けながら
彼らの魅力を発信してい
きたい。(さわや・しげ
こ) 浅川伯教・巧兄弟資
料館館長)

ついで伯教の初の著作集
「朝鮮古陶磁論集」全2
巻をこのほど刊行した。
著作を改めて読むと、
真に美を探求する芸術家
としての伯教が浮かび上
がる。伯教は美しいもの
があれば、それを生み出
す人や風土、文化に当た
り前のように敬意を払
う。朝鮮白磁に心打たれ
た彼は、それを作り出し
彼らの魅力を発信してい
きたい。(さわや・しげ
こ) 浅川伯教・巧兄弟資
料館館長)

私は大学卒業後、雑誌
・書籍の編集に就いた。
その後、東京から山梨に
移り住み、浅川兄弟を知
った。現在の北杜市郷土
資料館の立ち上げに携わ
っている頃、巧の生涯を
描いた小説の映画化が決
まった。制作事務局を務
めた朝鮮を心から慈しみ、
郷土史考証の立場で
制作にも関わった。

私は大学卒業後、雑誌
・書籍の編集に就いた。
その後、東京から山梨に
移り住み、浅川兄弟を知
った。現在の北杜市郷土
資料館の立ち上げに携わ
っている頃、巧の生涯を
描いた小説の映画化が決
まった。制作事務局を務
めた朝鮮を心から慈しみ、
郷土史考証の立場で
制作にも関わった。

私は大学卒業後、雑誌
・書籍の編集に就いた。
その後、東京から山梨に
移り住み、浅川兄弟を知
った。現在の北杜市郷土
資料館の立ち上げに携わ
っている頃、巧の生涯を
描いた小説の映画化が決
まった。制作事務局を務
めた朝鮮を心から慈しみ、
郷土史考証の立場で
制作にも関わった。

資料整理に注力
2008年に高崎氏が
全資料を館に寄贈されて
からは資料整理に力を注
いだ。中には伯教が諸紙
誌に掲載した論考や随
筆、新聞記事などの複写
も多数含まれていた。巧
については日記や全集が
刊行されているが、伯教
のものはない。発表
紙誌を再調査し、解題を

兄の伯教については手
収集して白磁の歴史と成
り立ち、日本との関係を
本にまとめた。敗戦で日
本に引き揚げるまでに訪
ねた窯跡は700カ所余
り。集めた陶片は10万片
を超えたと思われる。
伯教は朝鮮に渡った翌
年、朝鮮白磁を手土産に

兄の伯教については手
収集して白磁の歴史と成
り立ち、日本との関係を
本にまとめた。敗戦で日
本に引き揚げるまでに訪
ねた窯跡は700カ所余
り。集めた陶片は10万片
を超えたと思われる。
伯教は朝鮮に渡った翌
年、朝鮮白磁を手土産に

兄の伯教については手
収集して白磁の歴史と成
り立ち、日本との関係を
本にまとめた。敗戦で日
本に引き揚げるまでに訪
ねた窯跡は700カ所余
り。集めた陶片は10万片
を超えたと思われる。
伯教は朝鮮に渡った翌
年、朝鮮白磁を手土産に

兄の伯教については手
収集して白磁の歴史と成
り立ち、日本との関係を
本にまとめた。敗戦で日
本に引き揚げるまでに訪
ねた窯跡は700カ所余
り。集めた陶片は10万片
を超えたと思われる。
伯教は朝鮮に渡った翌
年、朝鮮白磁を手土産に

白磁の美伝えた兄弟追う

◇朝鮮総督府時代 優れた鑑賞眼で古陶磁愛した日本人◇

沢谷 滋子



究に没頭してこい。
◇◇◇
柳宗悦「開眼」の契機
窯跡を求めて朝鮮半島
中を訪ね歩き、打ち捨て
られた膨大な数の陶片を

柳の自宅を訪ねた。その
魅力に開眼した柳は後に
度々朝鮮に渡る。兄を追



白磁「青花辰砂蓮花文
壺」(大阪市立東洋陶磁
美術館蔵、六田知弘撮影)

して日本に紹介された。
3人は24年に植民地下の
京城(現ソウル)に朝鮮
民族美術館を設立した。

現地の教科書で紹介
兄弟については歴史学
者の高崎宗司氏の研究が
詳しい。私は兄弟の故郷
である山梨県北杜市にあ
る資料館の館長として、

氏が寄贈した資料を整理
し、その業績や思想に改
めて迫ろうとしている。
高崎氏が「朝鮮の土と
なった日本人」(草風館)
にまとめた弟の巧の生涯



右から浅川伯教、柳宗悦、浅川巧(1928年、朝鮮の
鶏龍山で窯跡を訪ねて、浅川伯教・巧兄弟資料館提供)

時代の焼き物「朝鮮白磁」
に美を見いだした。生涯
を研究にささげ「朝鮮古
陶磁の神さま」と呼ばれ
た。巧は朝鮮総督府の山
林課職員として山野の緑
化に取り組み、朝鮮語を
学んで現地の人々と交流
を重ね、慕われた。

兄弟が探究した朝鮮美
術や文化は、柳宗悦を通